

「リクナビ進学」アプリを使い スムーズで慎重な学校比較を実現

港高校（大阪・府立）

創立100年を超える大阪府立港高校。伝統校でありながら常にチャレンジ精神を大切に、最近ではアクティブラーニングや反転授業を試みるなど革新的だ。2015年度、進路指導においても、生徒が所有するスマートフォンを活用し新たな取り組みをスタートさせた。

安易に進路を決めず 学校を比較検討する

同校の進路指導のテーマは、1学年は「自分をj知る」、2学年は「自分を伸ばす」、3学年は「進路を実現する」である。「港高校は典型的な進路多様校で、生徒の学力差もあります。本当はもっと上を目指せるのに、周りが決まってくるとあせってしまい早く簡単に進路を決めようとする生徒がいることが近年の課題でした」と、2学年主任の浦山聖先生は言う。

そこで現在は、チャレンジ精神を育てることに力を入れている。2学年で

「自分を伸ばす」ためには、多くの情報を集め、比較し、悩み、自ら動くことが大切と考え、4月に「進路事典分野選び研究号」を用いての進路学習を始めた。まずはキャリアアカウンセラーの進路講演で、安易な進路選択によるミスマッチの例などを聞き、慎重な進路選択の大切さを知る。そして興味のある分野から、どのように学校を比較検討していけばいいかを学び、「進路事典 分野選び研究号」の資料請求ハガキを使って、大学や専門学校資料を取り寄せる。

ハードルを低くして オープンキャンパスに参加

一度、資料を取り寄せる経験をして要領をつかんだら、7月にはオープンキャンパスに向けて自分たちで学校調べができるよう、スマホのアプリを使った進路学習を実施した。QRコードが記載されたアプリカードを使い、一斉に「リクナビ進学」のアプリをダウンロード

ード。リクルートスタッフによる説明を聞きながら、その場で気になる学校をお気に入り登録。したりオープンキャンパスの予約をする。もちろん、新たな資料請求もできる。

また、昨年まで実施していたオープンキャンパスハガキを取りやめ、公共の交通機関を使って各自で行くことにした。オープンキャンパスに参加したら、レポートも提出する。

「校内でスマホ使用は禁止ですが、せつかくほとんどの生徒が持っている便利なツールなのだから、検索機能を使わせたいと思っていました。今回の取り組みでは、生徒が「自分で調べて予約して行った」という意識ももてたことがよかったです」と浦山先生。主体的に参加することで、オープンキャンパス当日も、先生や学生に話を聞いたり、同級生と意見交換をしたりという行動が活発になった。この夏、自主的にオープンキャンパスに行った生徒は4割に達し、安易に考えていた進路に疑問をもつ生徒も現れはじめた。

「ミスマッチを防ぐために、実際に志望校に出かけて、肌で感じてきてほしい。少しでも多くの生徒をオープンキャンパスに向かわせる手段としてスマホアプリは効果があったと思います」と2学年主任の片岡知子先生。また、同じく担任の佐藤由佳先生も「進路指導室で資料を探し、進路指導室のパソコンや電話で申し込みをするのは生徒にとって高いハードルでした。これだけオープンキャンパスへの参加率が上がったのですから、スマホを使う価値はあると思います」と言う。

目標は半数以上の生徒が2学年のうち複数の学校のオープンキャンパスに参加すること。2学年の学年回は、この目標を達成することで、3学年の進路指導のテーマである「進路実現」に向かって早いスタートを切れると考えている。

■ オープンキャンパスワークシート



リクルート「オープンキャンパスレポート」より。当日見学した内容をしっかりと書き込む生徒が増えた。



2学年主任 首席 浦山 聖先生(中央)
2学年担任 片岡知子先生(右)
2学年担任 佐藤由佳先生(左)
「学校の外に出てたくさんの職業や学校があることを知ることが大切。その手伝いをしてあげたい」(浦山先生)